第2章 事業者の氏名及び住所

2.1 事業の名称

東北大学青葉山新キャンパス整備事業

2.2 事業の経緯

平成4年に宮城県が設置した青葉山県有地の土地利用に関する懇談会において、青葉山県有地の利活用についての検討が開始され、平成6年10月に同懇談会から知事に対し、「青葉山県有地を東北大学のキャンパス用地として利活用を図ることが、より公共性の高い県有地の利活用である」との報告がなされた。

本学においても、平成6年9月に、総合大学としての機能を十分に発揮し得る教育研究環境の実現を目指すため、青葉山・川内キャンパスに隣接する新たなキャンパス(以下「新キャンパス」とする)を取得し整備することを決定した。平成8年には学外に「青葉山環境保全懇談会」を設置し、「東北大学青葉山キャンパス憲章」 注)を提言頂いた。また同年に東北大学の青葉山移転を進める会より宮城県議会に、「青葉山県有地への東北大学キャンパスの早期移転を求める請願書」が提出され、附帯意見付きで県議会にて採択された。

その後、これまでに「東北大学新キャンパス構想」や「片平・雨宮地区等の移転に関わる新キャンパス整備大綱」を取りまとめるなど、新キャンパス構想の実現に向けて様々な準備を進めてきた。

青葉山県有地をめぐっては、平成9年12月に宮城県が同地を借用しゴルフ場を運営していた株式会社仙台カントリークラブを相手に明け渡しを求める民事訴訟を提訴したが、平成15年4月に和解し、平成17年1月末には同地が宮城県に明け渡された。その後、平成18年8月28日に県有地を正式に取得する運びとなった。

環境影響評価の手続きは、平成 17 年 6 月 29 日環境影響評価方法書を提出し、同年 11 月 17 日に得た市長意見を踏まえて、現地調査を引き続き実施するとともに、平成 19 年 3 月に発表したキャンパスマスタープラン並びにそれに基づいた造成基本設計に従い、本事業による予測評価を行い、平成19 年 7 月 18 日環境影響評価準備書を提出し、同年 12 月 27 日に市長意見を得た。その結果、環境影響評価書を作成し提出した。

本学は、その創設期より基盤的研究から生まれる実学尊重の伝統を重視し、「研究中心大学」の精神を生かした研究開発を積極的に展開し、これまで数々の独創的かつ先端的な研究成果を世界に発信するとともに社会に還元してきた。

また、「指導的人材の養成」を教育目標に掲げ、ノーベル賞を受賞した田中耕一名誉博士など、日本のみならず世界の発展に大きく貢献する創造性溢れる多くの逸材を社会に送り出している。

創立 100 周年を平成 19 年に迎えた本学には、これまでに培われた伝統と実績を基礎として、その活力を一層ダイナミックに発揮させ、資源、エネルギー、環境等、地球規模の諸課題の解決や人類の未来を切り拓く情報通信、ナノテクノロジー・材料、バイオ等の先端分野の研究開発において重要な役割を果たすとともに、創造力豊かで高度な知識を持った指導的人材の養成を行い、我が国、ひいては世界の発展に貢献することが強く求められている。

注)「東北大学青葉山キャンパス憲章」は、学外の有識者を中心に設置した青葉山環境保全懇談会が緑の創出、景観の維持、環境の保全等を趣旨としてとりまとめた本事業計画に対する提言である。

本学が、自らの知的資源を基盤に社会からの要請に着実かつ的確に応え、国際的競争力を持った世界最高水準の総合大学としてさらなる飛躍と発展を遂げていくためには、本事業を実施し、学域融合による新たな学問領域の創出など、教育研究の高度化・多様化等に的確に対応し得る「知の創造と継承」の拠点としての豊かな教育研究環境の創造を行うことが不可欠である。

2.3 事業の内容

対象事業実施区域は、市街化調整区域であったため(現在は準工業地域)、都市計画(地区計画)の決定を経て、開発許可の手続きを行い、事業を進めた。対象事業の内容を表 2-1 に示す。

対象事業実施区域の位置は、本学の現青葉山・川内キャンパス隣接地にあたる。対象事業実施区域の広域的な位置を図 2-1 に示す。また、対象事業実施区域周辺の状況を図 2-2 に、対象事業実施区域周辺の航空写真を図 2-3 に示す。

事業名称	東北大学青葉山新キャンパス整備事業
種 類	学校用地の造成の事業
位 置	仙台市青葉区荒巻字青葉 468 番 1 地内 他
敷地面積	約 82.9ha(大学所有地:約 81.4ha、市有地:約 1.5ha)
計画人口	約 5,500 人 (学生:約 3,700 人、教職員等:約 1,800 人)
主要用途	大学
造成工事期間※1	平成 20 年 10 月 ~ 平成 25 年 3 月
世田間松子学年日口※1	平成 25 年 4 月 (一部供用開始)
供用開始予定年月日*1	平成32年4月(全体供用)
理会影響が伝え、字坛子で	仙台市環境影響評価条例第2条第3項第12号
環境影響評価を実施する	学校用地の造成の事業
ことになった要件	A地域 ^{※2} 学校用地の面積が 10ha 以上に該当

表 2-1 対象事業の内容

- ※1) 造成工事期間及び供用開始予定年月日が「環境影響評価書-東北大学青葉山新キャンパス整備事業-」(平成 20 年 2 月、東北大学) の記載と異なる理由については、「2.4 評価書時点からの事業計画の変更事項」に示す。なお、造成工事を見合わせていた一部箇所については、平成 28 年 5 月~平成 29 年 7 月に造成工事を行った(図 2-4 参照)。
- ※2)「A地域」とは、「仙台市環境影響評価条例施行規則」(平成11年3月17日 仙台市規則第6号)の第3条別表第1に掲げられた地域であり、対象事業実施区域に係わる条例を以下に示す(図2-2参照)。
 - ・「杜の都の環境をつくる条例 (昭和 48 年仙台市条例第 2 号、平成 18 年改正) 」第 14 条第 1 項の規定 により指定された保存緑地
 - ・「広瀬川の清流を守る条例(昭和49年仙台市条例第39号)」第8条第1項第1号の規定により指定された環境保全区域のうち、「広瀬川の清流を守る条例施行規則(昭和51年仙台市規則第26号)」第10条第1号に規定する特別環境保全区域



図 2-1 対象事業実施区域の広域的な位置

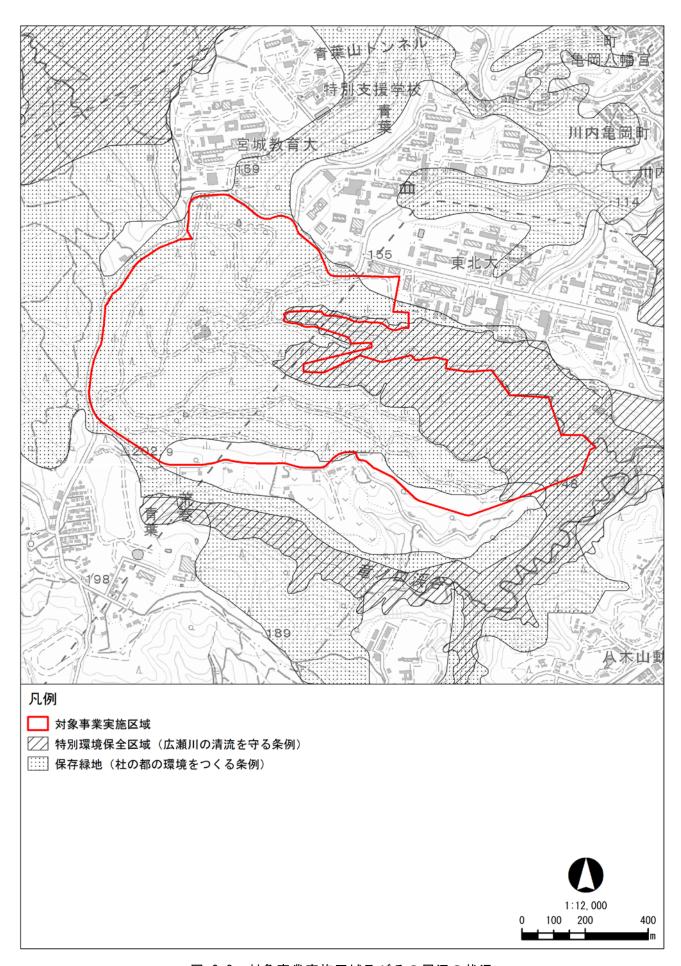


図 2-2 対象事業実施区域及びその周辺の状況

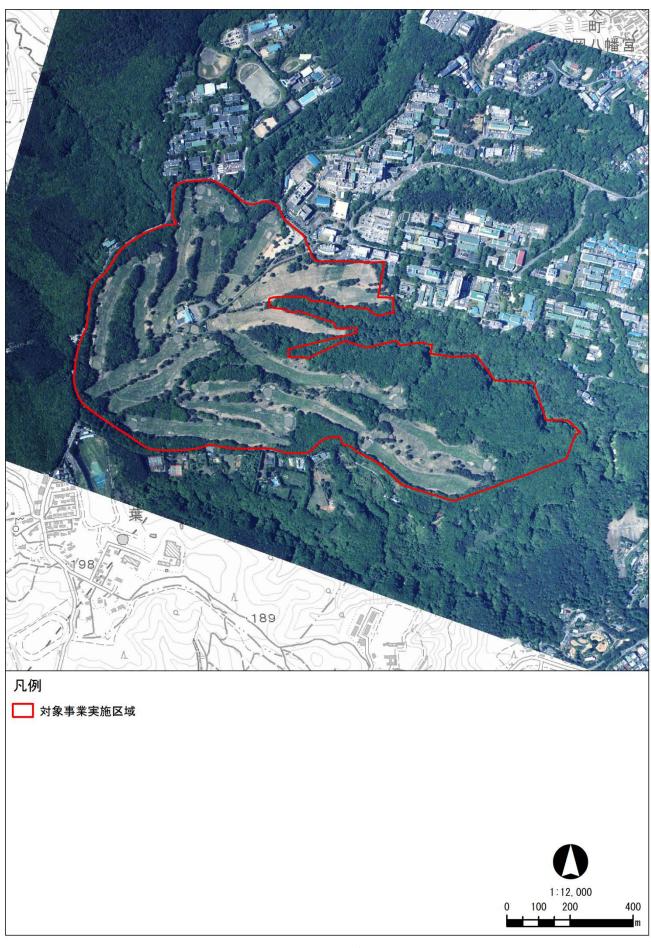


図 2-3 対象事業実施区域及びその周辺の航空写真

2.4 評価書時点からの事業計画の変更事項

「環境影響評価書-東北大学青葉山新キャンパス整備事業-」(平成 20 年 2 月、東北大学)(以下「評価書」とする)記載の工事工程及び実際の工事工程を表 2-2 に示す。

評価書では、平成20年4月から工事着手の予定であったが、環境影響評価手続き後の開発許可等の手続きに当初の想定以上の期間を要し、平成20年10月からの工事着手となった。整地工期間については、冬期の降雨雪により現場の粘性土がぬかるむなどの施工上の問題が表れたことから、それらを解決するため、工事用通路への砕石敷設、消石灰の散布などの地盤改良を行った。このため、当初想定以上の期間を要し、当初の平成20年11月終了予定が平成21年5月となった。整地工の着手の遅れにより、整地工に続く工程(道路・排水・共同溝工事など)についても着手が遅れた。埋設排水管等の敷設においては慎重を期するため、共同溝等の埋戻し土の沈下が落ち着いた後に次工程に着手した。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、平成23年3月~5月までは工事休止期間となり、平成23年11月までは応急復旧工事(被害状況調査及び更なる被害の増加を防ぐための応急対策)を行った。東日本大震災に係る本震及び度重なる大規模な余震による被害は、旧ゴルフ場時代に盛土を行った箇所と元地形の境周辺において表層が崩れるなどの変状が生じ、施工が済んでいたU字溝等に変形が生じたほか、地盤にクラック(地表面にできた裂け目や亀裂)が入るなどした。対策の検討にあたり地質調査を実施した結果、地震動による旧ゴルフ場の盛土部の不安定化が原因と考えられたことから、現状復旧のみならず、改良盛土を行うなどの処置を施し、復旧工事を行った。また、これら本格復旧工事を進めながら、並行して各工事を行った。

さらに、平成24年12月7日に発生した東日本大震災の比較的大きな余震により、法面等復旧工事の施工中の部分で微細なクラックが確認され、施工済みのU字溝やコンクリート舗装路盤のジョイント目地部にモルタル欠損等の被害が確認された。施工中の不安定な状況下での被害であり、程度も微細なため構造等に問題はないものと判断したが、これらの復旧などもあり、平成21年9月終了予定が平成25年3月終了となった。

当初予定していたスポーツゾーン内の運動施設工事については、整地等の造成工事は終了したが、 財政状況を勘案した結果、運動場等の整備は今後行っていく計画とした。このほか、評価書記載の事業計画からの変更事項は特にない。造成等が完了した箇所においては、開発行為の諸手続きを進めながら建物の建設工事を行っている。

また、造成工事を見合わせていた一部箇所については、平成28年5月~平成29年7月に造成工事を行い、環境影響評価に係るすべての工事を終了した。

現在までの対象事業の実施状況を表 2-3 に、建設済み建物及び建設着手建物の状況を図 2-4 に示す。

■評価書に記載の工事工程

										I		租	₹								
工種				2	呼成20	年									平成	21年					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
整地工																					
防災工	-																				
道路工																					
共同溝工																					
雨水排水工	Ш				Ш	-				\blacksquare							П	Ш	Ш		
調整池工																	Ш	Ш	Ш		
汚水排水工																					
外構工事																					
運動施設工事			Ш			Ш											Ш	Ш			
共同溝内インフラ整備工	Ш				Ш	Ш	Ш										Ш	Ш	Ш	Ш	

■実際の工事工程(平成20年度~平成25年度)

																												ェ			程																													
工種				平成20	年								平月	成21年	Ŧ											平成	22年											平月	或23年	Ξ											平成2	4年						픽	平成25:	年
	4月	5月 6月	7月	8月	9月	10月	11月 1	2月 1	月 :	2月 3	月 4)	5 F	6月	7,5	8,	月 9.	月 1	0月 1	1月 13	2月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9,5] 10	月 11	月 12	月 1	月 2	月 3	月 4	月	5月	6月	7月	8月 9	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
整地工						2000								×			П			П													П										-									***************************************								
防災工																																																												
道路工																																								-				++					-											
共同溝工																															-		-	-																										
雨水排水工														00000000						•																																								
調整池工						000000000	-												+																																									
汚水排水工														0000000						-																							+++																	
外構工事						000000000																																		-			+++	+	+++															
運動施設工事																																																												
共同溝内インフラ整備工																																								-		++-		-																
東日本大震災関連														000000000000000000000000000000000000000				***************************************									000000000000000000000000000000000000000									事休止	\neg			急復	旧工	事期間		+ +							復	旧工事	期間					***************************************		4
																																									旧工事		は、貝			本工事				0										

■実際の工事工程(平成28年度~平成29年度)

							I			程						
エ種				ㅋ	ヹ成28:	年						4	成29	年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
整地工												-				HI
道路工					-					-						
共同溝工			-													
雨水排水工																

表 2-3 現在までの対象事業の実施状況

年 月	事 項
平成 17 年 7月	環境影響評価方法書 公告
平成 19 年 7月	環境影響評価準備書 公告
平成 20 年 2 月	環境影響評価書 公告
平成 20 年 10 月	造成工事着手
平成 23 年 3 月	東日本大震災
平成 23 年 3 月~ 5 月	東日本大震災に伴う工事休止・被害状況調査
平成 23 年 6 月	東日本大震災による復旧工事開始 (応急復旧工事は平成 23 年 11 月まで実施した。なお、平成 24 年 12 月 7 日に発生した比較的大きな余震の復旧も含め、復旧工事は工事完了まで継続した。)
平成 23 年 12 月	造成工事再開
平成 25 年 3 月	造成工事完了
平成 25 年 10 月	事後調査報告書(第1回)の公告※1
平成 26 年 10 月	事後調査報告書(第2回)の公告※2
平成 28 年 5 月	造成工事着手**3
平成 29 年 7月	造成工事完了、工事完了届の提出**3

^{※1)「}東北大学青葉山新キャンパス整備事業に係る事後調査報告書 (第1回)」(国立大学法人東北大学、平成25年10月)

^{※2)「}東北大学青葉山新キャンパス整備事業に係る事後調査報告書(第2回)」(国立大学法人東北大学、平成26年10月)

^{※3)} 造成工事を見合わせていた一部箇所については、平成28年5月~平成29年7月に造成工事を行った(図2-4参照)。

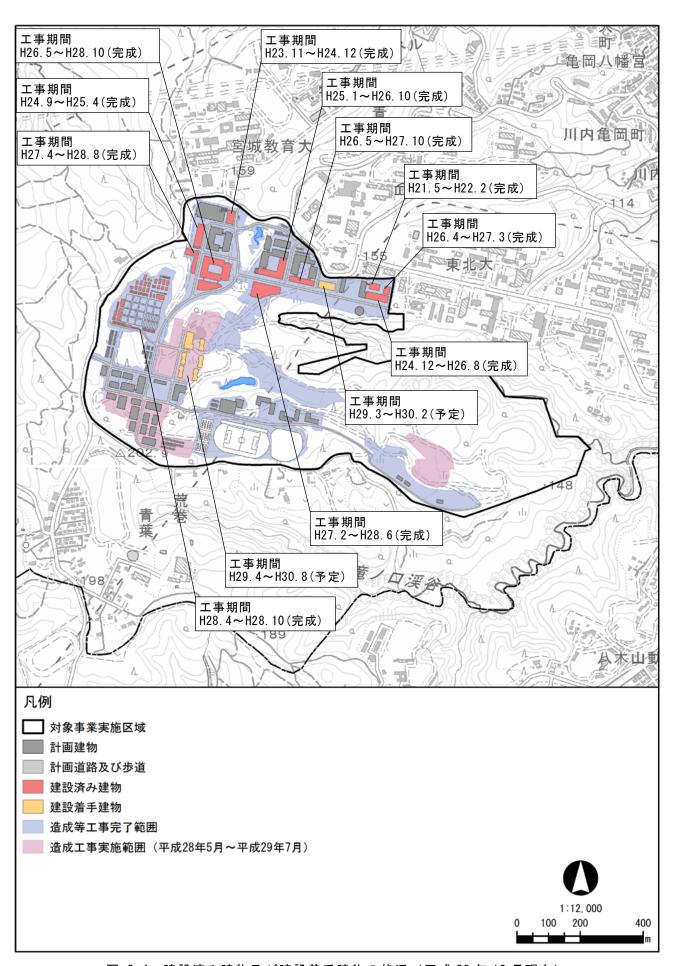


図 2-4 建設済み建物及び建設着手建物の状況 (平成 29 年 10 月現在)

2.5 事業計画変更に伴う事後調査計画の変更

工事中の事後調査は、大気質、騒音、振動、水質、地形・地質、土壌汚染、植物、動物、生態系、 自然との触れ合いの場、廃棄物等の調査を平成25年3月までに実施し、「東北大学青葉山新キャン パス整備事業に係る事後調査報告書(第1回)」として報告した。

供用後の事後調査は、調査項目に変更はないが、「2.4 評価書時点からの事業計画の変更事項」に示したとおり、工事期間の延長に伴い、供用開始が平成23年4月から平成25年4月へと2年遅れたことから、調査の時期を変更し、「東北大学青葉山新キャンパス整備事業に係る事後調査報告書(第2回)」として報告した。

その後、造成工事を見合わせていた一部箇所について、平成28年5月~平成29年7月に造成工事を実施した。環境影響評価時の事後調査計画では予定されていないが、造成工事の範囲及び工事期間を踏まえ、造成工事による影響が想定される項目を選定し、調査を行った。

また、平成 29 年度に実施を予定していた供用 5 年後の植物及び一部の動物調査については、今回の造成工事が平成 29 年 7 月の完了であったため、翌年の平成 30 年度に実施することとした。

本報告書では、今回の造成工事による影響が想定される土壌汚染、動物(両生・爬虫類、魚類、 底生動物)、生態系(トウホクサンショウウオ)、廃棄物等の調査結果のほか、平成 26 年度に実施し た植物移植個体の生育状況の確認結果を記載する。

事業計画変更に伴う事後調査計画の変更を表 2-4 に示す。また、事後調査の全体計画とこれまでの実施状況を表 2-5 及び表 2-6 に、評価書に記載の事後調査の全体計画を表 2-7 に示す。

表 2-4 事業計画変更に伴う事後調査計画の変更

		11 7 年 区間 且 日 〇 及 又
項目	調査内容	変更内容
土壌汚染	・汚染土壌の有無の確認	環境影響評価時の事後調査計画では予定されていないが、造成工事において土壌の搬出入が発生した場合は、 土壌汚染が確認される可能性があるため、調査を実施することとした。
植物	・改変エリア隣接地の注目すべき種の変化 ・改変エリア隣接地の注目すべき植物群落の 変化	平成29年度に実施を予定していた供用5年後の調査については、今回の造成工事が平成29年7月の完了であったため、翌年の平成30年度に実施することとした。
動物	・動物相及び注目すべき種の変化 両生・爬虫類 魚類 底生動物 ・排水路U字溝等への墜落状況の確認 ・代償措置(水域)の追跡調査	環境影響評価時の事後調査計画では予定されていないが、造成工事の範囲及び工事期間を踏まえ、調査を実施することとした。
	・建物への衝突状況の確認 ・代償措置(水域)の追跡調査	平成29年度に実施を予定していた供用5年後の調査については、今回の造成工事が平成29年7月の完了であったため、翌年の平成30年度に実施することとした。
生態系	・トウホクサンショウウオ (特殊性の注目種)の生息状況の変化	環境影響評価時の事後調査計画では予定されていないが、造成工事の範囲及び工事期間を踏まえ、調査を実施することとした。
廃棄物等	・建設発生木材及びリサイクル等抑制策による削減状況等 ・残土の発生量及びリサイクル等抑制策による削減状況等	環境影響評価時の事後調査計画では予定されていないが、造成工事の実施により、廃棄物等の発生が懸念されることから、調査を実施することとした。

事後調査の全体計画とこれまでの実施状況(事後調査報告書(第3回)報告時) 2-2 表

		H	# # # 0	4 001	# # 001	# # # 01	# 4 101	400	# # 1	4 4 001	# 4001	# 4 001	-	# 400
項目	内容	TZU牛/支 春 夏 秋 冬 春	11年1支票 数条	™22年度 春夏秋冬	π∠3平1支 春 夏 秋 冬	⊓24年/支春 夏秋冬	ロZ3牛/支 春 夏 秋 冬	TZO+1支 春夏秋冬	⊓∠/牛/攴 春夏秋冬	⊓∠0.年/支 春 夏 秋 冬	nと9年/支春 夏秋 冬	□30年/支 春夏秋冬	□S1牛/皮 帯 夏 秋 冬	⊓321年/支春 夏秋 冬
整備	造成工事 ^抽 株工士													
スケジュール	A								▼ ▼ * * * * * * * * * * * * * * * * * *	秦 昭 67	**************************************	数据物件们	→ #	tt (1) # #
事後調査報告	報告書提出時期(予定)						第1回報告	第2回報告	# # #	¥	第3回報		K	最終報告
大気質	・工事用車両による二酸化窒素、浮遊粒子状物質の濃度・重機の稼働による二酸化窒素、浮遊粒子状物質の濃度・重機の稼働による粉じんの環境保全措置の実施状況					4 4 4 								
	・自動車の走行による二酸化窒素、浮遊粒子状物質の濃度													
中盤	・工事用車両の走行による道路交通騒音 ・重機の移働による建設作業騒音	 * *		 	 	∢ ∢ 								
I	・自動車の走行による道路交通騒音													
4	・工事用車両の走行による道路交通振動	 				4								
松割	・皇儀の株割による建設作素恢則・自動車の走行による道路交通振動	×				▼		Г						
水質	・浮遊物質量の沈降試験 ・切土・盛土・掘削等に伴う浮遊物質量の濃度	*		*			### ###							
米 象	・浸透能(流出係数)の変化・湧水地の直接的改変													
	・土地の安定性			*		V								
お形・お館	・地形の改変の程度 ・土地の安定性		-				7,000,000,000,000,000,000,000,000,000,0	THE REAL PROPERTY OF THE PERSON OF THE PERSO				供用5年後	-	
土壌汚染	・汚染土壌の有無の確認	 - - -				▼					V	>		
77 +7	・改変エリア隣接地の注目すべき種の変化	貴重種の特別を	植栽樹種色数群	移植後		移植後。	• •	移植後日				• • •		
個物	・改変エリア隣接地の注目9へき相物群落の変化・致結局体の生き中に	ľ	は御命に	<u> </u>	C	II +		I + 0				•		
	・動物相及び注目すべき種の変化										I			
	哺乳類						•							
	鳥類品本・高中都		•	•		•	•			•				
4.4	5. 计一点分别 医甲基二氏 计分别 医甲基二氏 计分别 计记录器 计记录器 计记录器 计记录器 计记录器 计记录器 计记录器 计记录器	<u> </u>	•	•	•	•	•			•	•			
副物	魚類	•	•	•		•	•			•	•			
	医生型物 计计算机 化二甲二甲二甲甲二甲甲二甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲	•	•	•		•	•			•	•			
	・建物への側尖状光の確認・排光路し字溝等への墜落状況の確認	•		•	•	•					•	 		
	・代償措置 (水域) の追跡調査	•	•	•	•	•	•			•	•	•		
十部名	・オオタカ (上位性の注目種) の生息状況の変化 ・森林性鳥類 (典型性の注目種) の生息状況の変化						• •							
K N	・トウホクサンショウウオ (特殊性の注目種) の生息状況の変化・暗到額移動終路の確認	•		•	•	•	•				•			
青	・自然的景観資源への影響の程度													
200 200	・眺望の変化の程度・動場は毎日のできます。			1		1								
自然との	・敷心場が尚辺の上事実施な沈の確認・工事用車面の走行状況の確認	1				4 								
触れ合いの場	・敷地境界周辺の状況の確認													
	・関係単向の走行状況の確認・強勢を手持むがにサイカーを抑制体に下て割減決に等					1					1			
# # # # # # # # # # # # # # # # # # #	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・					4 					4 			
※集物等	・廃棄物の発生量及びリサイクル等抑制策による削減状況等・水の判用号の割はせい													
温室効果ガス	・小の小川車の門城小が ・二酸化炭素の発生量、省エネルギー対策等による削減量													i li
		•	定及び目視	・探集・移権	測定及び目視・採集・移植・移殖等の現地調査実施時期を示す	地調査実施時	期を示す。			-			=.	
	:事後調査報告書(第2回)報告內容		専車団・重	機の稼働台数	工事車両・重機の稼働台数等や工事の影響が最大となる時期の現地調査実施時期を示す	響が最大とな	る時期の現地	調査実施時期	を示す。					
	:事後調査報告書 (第3回) 報告內容 【今回報告】	H #	事記録確認、	及びヒアリンナ ナナ	工事記録確認及びヒアリングの実施時期を示す調本出ままま ナナ・ナヤ・コイト語 ギューゴー	を示す。	* E ^ E -! ++) 6 1	\$ \$ 4 4	1				
			調査期間を示す 経過観察を示す	す。なお、7 す。	– 調査期間を示す。なお、オオタカ調査は、地下鉄東西線に係る調査結果を用いて生息状況を把握した 経過観察を示す。	、地下鉃東四	繰に 係る調金	結果を用いて	生息状況を把	握した。				

報告時) (第2回) 事後調査の全体計画とこれまでの実施状況(事後調査報告書 2-6 表

10 10 10 10 10 10 10 10	I		春夏秋冬春夏秋冬春夏	夏秋冬春夏	秋 冬 春 夏 秋	冬春 夏秋冬	春 夏 秋 冬	春夏秋冬	序 夏 秋 冬 春	夏秋冬春	夏秋冬春	夏秋冬看	春 夏 秋
## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ##	整備	造成工事 13-845二十						-	l n H	- 34			
	スケジュール	A. A					1			- -	-	→ #	te Or
	事後調査報告	報告書提出時期(予定)				第1回報件	##					K	最終報件
	大気質	・工事用車両による二酸化窒素、浮遊粒子状物質の濃度・重機の移働による二酸化窒素、浮遊粒子状物質の濃度・重機の移働による粉じんの環境保全措置の実施状況										 	
		・自動車の走行による二酸化窒素、浮遊粒子状物質の濃度		\dashv		-							
	畑	・工事用車両の走行による道路交通騒音 ・重機の稼働による建設作業騒音		<u> </u>	 								
重要の発展による経路交通を 自動のの海による経路交通を 自動のの海には、 (日本のの海の関係 土地のの海の関係 土地のの海の関係 土地のの海の関係 土地の海の海の海の海の 大型生物の海の海の海の 土地の海の海の海の海の海の海の 土地の海の海の海の海の海の海の海の 土地の海の海の海の海の海の海の海の海の海の海の海の海の海の海の海の海の海の海の海		・自動車の走行による道路交通騒音	***************************************										
	4	・工事用車両の走行による道路交通振動 ・害機の発験 ・よ神記体業性熱				4 4							
2	IX al()	- 主版の存割による建設に未成割・・自動車の走行による道路交通振動											
		· 浮遊物質量の沈降試験 · 切土· 廢土· 掘削等 [伴 > 浮游物皆量の濃度	*	*		年 用時							
	※	· 浸透能 (流出係数) の変化 · 语水抽の直接的功亦				1 1							
		・土地の安定性		*	l								
	り形・地質	· 地形の改変の程度 · 十地のお字林			li i								
改変工り「解析性の次目すべき種の変化	- 壤污染	- エニジスだは ・汚染土壌の有無の確認			H				T	東州5年後			
		・改変エリア隣接地の注目すべき種の変化	植栽樹種	5植後	移植後	•	移植後		•	>•			
	1430 1430 1430 1430 1430 1430 1430 1430	・収炎エリア熔接地の注目すへき組物群洛の炎化・致結個休の仕事計に	り参信中	II •	‡°		п #c			•			
編集 類		- 物電間体のエドルル - 動物相及び注目すべき種の変化		•									
原生動物 (単独) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本		哺乳類											
原虫類 (集対 (両生・爬虫類	•	•	•	•							
無理的への衝突状況の確認 ・技術格 (大連) の金融を状況の確認 ・技術格 (大連) の全島状況の変化 ・オイタカ (上位性の注目種) の生息状況の変化 ・ 中	1物	昆虫類		_		•							
建物への衝突状況の確認		A. A	• •	• •	• •	•							
- ・		・建物への衝突状況の確認				İ			_!_				
・ オオタカ (上位性の注目種) の生息状況の変化 ・ ボネタカ (上位性の注目種) の生息状況の変化 ・ ボーナッカンオ (特殊性の注目種) の生息状況の変化 ・ ボーナッカンオ (特殊性の注目種) の生息状況の変化 ・ ボーナッカン (特殊性の注目種) の生息状況の変化 ・ ボーキの (特別を) (特		- 排水路し字溝等への墜落状況の確認 - ・作[售措置 (水域) の追跡調本		•	•	• •			•				
## 2		・オオタカ(上位性の注目種)の生息状況の変化											
- 暗孔独像の程度 - 助型の変化の程度 - 助型の変化の程度 - 財地境界周辺の工事実施状況の確認 - 工事用車両の走行状況の確認 - 工事用車両の左行状況の確認 - 財地境界周辺の状況の確認 - 関係車面の左行状況の確認 - 関係車面の左行状況の確認 - 関係車面の左行状況の確認 - 財産・一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	熊系			•	•	•							
- 眺望の変化の程度 - 紫地境界周辺の工事実施状況の確認 - 工事用車両の走行状況の確認 - 工事用車両の走行状況の確認 - 工事用車両の走行状況の確認 - 関係車両の走行状況の確認 - 関係車両の走行状況の確認 - 関係車両の走行状況の確認 - 関係車両の走行状況の確認 - 関係車両の走行状況の確認 - ・	8	・哺乳類移動性的の推踏・自然的景観資源への影響の程度		+				ľ	1	li		li	li
・敷地境界周辺の工事実施状況の確認 ・工事用車両の走行状況の確認 ・野地境界周辺の上事実施状況の確認 ・関係車両の走行状況の確認 ・関係車両の上の大状況の確認 ・関係車両の上の大状況の確認 ・関係車面の上の大分ル等抑制策による削減状況等 ・関係車数びリサイクル等抑制策による削減状況等 ・大変制用量の削減状況等 ・大変制用量の削減状況 ・大変制用量の削減状況 ・大変制用量の削減状況 ・大変制用量の削減状況 ・大変制制業による削減量 ・大変制制・機能を表す。 ・主事権所・整備を数率や工事の影響が最大となる時期の現地調査実施時期を示す。 ・主事権所・重複の移動の発生量及びリカイクル等抑制等による削減量 ・大変制制等による削減量 ・大変制制等による削減量 ・大変制制を表す。 ・工事を調査報告書(第1回)報告内容 ・大変制力を表す。 ・工事を調査報告書(第1回)報告内容 ・大工事車所・重複の移動の現地調査実施時期を示す。	5.他兄	・眺望の変化の程度						-:-		1		1	
・敷地境界周辺の状況の確認 ・関係車面の走行状況の確認 ・建設発生本材及びリサイクル等抑制策による削減状況等 ・廃棄物の発生量及びリサイクル等抑制策による削減状況等 ・水の利用量の削減状況 ・水の利用量の削減状況 ・水の利用量の削減状況 ・水の利用量の削減状況 ・水の利用の発生量及びリサイクル等抑制策による削減量 ・水の利用の発生量を促出しまる削減量 ・水の利用の発生量を促出しまる削減量 ・水の利用の発生量を促出しまる削減量 ・水の利用を示す。 ・水の利用を示す。 ・水の利用を示す。 ・水の利用を示す。 ・水の利用を示す。 ・水の利用を示す。 ・水の利用を示す。 ・水の利用を示す。 ・水の利用を示す。 ・本・ニー・ニー・ニー・ニー・ニー・ニー・ニー・ニー・ニー・ニー・ニー・ニー・ニー・	然との	・敷地境界周辺の工事実施状況の確認 ・工事用車両の走行状況の確認	* 	 	 	4 4							
・建設発生末材及びリサイクル等抑制策による削減状況等 ・残土の発生量及びリサイクル等抑制策による削減状況等 ・廃棄物の発生量及びリサイクル等抑制策による削減状況等 ・水の利用量の削減状況 ・水の利用量の削減状況 ・水の利用量の削減状況 ・ 工業と関心を表表を表現を観音を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	地れ合いの場	・敷地境界周辺の状況の確認・関係車面の走行状況の確認・関係車面の走行状況の確認・											
・残土の発生量及びリサイクル等抑制策による削減状況等 ・廃棄物の発生量及びリサイクル等抑制策による削減性法 ・液の利用量の削減状況 ・水の利用量の削減状況 ・水の利用量の削減状況 ・ 水の利用量の削減状況 ・ 事後調を報告者(第1回)報告の容 (第1回)報告の容 (・建設発生木材及びリサイクル等抑制策による削減状況等				4 -							
・水の利用量の削減状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	客棄物等	・残土の発生重及ひりサイクル等抑制策による削減状況等・廃棄物の発生量及びリサイクル等抑制策による削減状況等				◀				i i	li		
	宝安効里ガス	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		+									
•*◀	三型が米パク	- 一段「D以来の光工里、 コイインイー 対水中による門成里・車条舗をお牛車(第1回) お牛巾物		無・終補・終別	一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	佐藤田か市中							
		・字 に応点 たい ロー(ホーロン 秋ロト) セニュ 事後調査報告書 (第2回) 報告内容	T 中 田	茶動 中報 第十二	- キの乳を配当へ。 - 事の影響が最大と	こなる時期の現り	也調査実施時期	を示す。					
■■■無本語語な序本・大な・ナナタも置めて、多て名本権の国際の関係を関する。				ヒアリングの第	ミ施時期を示す。								

表 2-7 評価書に記載の事後調査の全体計画

10 10 10 10 10 10 10 10	項目	郊内	H20年度 * 『 * 《	H21年度 * 『 * *	丰度	₽ 度 ₩ ≪	# X ≪	#¥ ×	華 *	₩ *	J+N ≪	F度	#K ≪	#K *	H32年度 * ョ * *
株元 1 日	# #	造成工事	*	** **		*		***	† ≤	* *	*	<i>(</i> r	* *	* *	tr ≤
19	常価 スケジューア	建築工事									***		***		
	1	and the state of			一期分	移転完了				東西線開業				# #	完成
	事後調査報告	報告書提出時期(予定)			8年	第2回報告				第3回報告					最終報告
##### 1000年間による。「最近に発表した。 ###### 1000年間による。「最近に発表した。 ##### 1000年間による。「最近に発表して、 #### 1000年間による。「最近に発表して、 #### 1000年間による。「また、 #### 1000年間による。「また、 #### 1000年間による。「また、 #### 1000年間による。「また、 #### 1000年間による。「また、 ### 1000年間による。	十 作 罪	・工事用車両による二酸化窒素、浮遊粒子状物質の濃度・重機の稼働による二酸化窒素、浮遊粒子状物質の濃度	•	i i											
		・重機の稼働による粉じんの環境保全措置の実施状況	1	į Į											
		・自動車の走行による二酸化窒素、浮遊粒子状物質の濃度								1	1	T	† 	1	11
	ļ.	・工事用車両の走行による道路交通騒音	•												
	型車	・里機の移動による建設作業験首一 白転車の土をによる 実験 大き数 サード・コング ちゅうき はんしょう はいかいき ちょう													
		・日期年の元付による追応父連職官・工業のままのまた。「大学の大学に対	ľ												ш
	丰	・1争吊車回の元行にその道弦文道核製・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	i i											
	LVE AUC	ま版の作制にある在以上来巡判 ・自動車の走行による道路交通振動			L							H	H	I	H
	出土	・浮遊物質量の沈降試験	•		供用時										
	水 真	・切土・盛土・掘削等に伴う浮遊物質量の濃度	•	ij	>										
	大參	・浸透能(流出係数)の変化・海水地の直接的砂漆													
- 地帯の改変の程度 - 土地の支援の支援を - 土地の支援を指 - 大き工程の対象の流程 - 大き工程の対象の流程を - 大き工程の対象の流程 - 大き工程の対象の流程を - 大き工程を - 大き工程を		・土地の安定性	ı	i											
2000年度	お形・ 地質	・地形の改変の程度													
(当業上リア原送地の注目する種の変化 「年間 1年間 1日間		・土地の安定性			I				供用5年後						
改変工リア開発地の注目すべき種の変化	土壌汚染	・汚染土壌の有無の確認	<u> </u>	ļ					<u>}</u>						
************************************		・改変エリア隣接地の注目すべき種の変化		移植後	•	移植後		移植後	•						
#報題権及び注目する書の変化	植物	・改変エリア隣接地の注目すべき植物群落の変化		本目				5年目	•						
		・移植個体の生育状況						il							
		・動物相及び注目すべき種の変化はず間に			(
田生 原虫類 単虫類 作性性では動物を必要を表状況の確認 (体体性管(水域)の連絡調査 イオタイレに住む注目標)の生息状況の変化 (本体性の注目標)の生息状況の変化 (本体性の注目標)の生息状況の変化 (本体性の注目標)の生息状況の変化 (本体性の注目標)の生息状況の変化 (中)を力かすが、(特殊性の注目類)の生息状況の変化 (中)を関連の変化の程度 (中)を対しての程度 (中)を対しての確認 (中)を対しが大力ル等抑制策による削減状況等 (本の発生量及びリオイクル等抑制策による削減状況等 (本の発生量及じリオイクル等抑制策による削減状況等 (本の発生量及じリオイクル等抑制策による削減状況等 (本の発生量及じリオイクル等抑制策による削減状況等 (本の発生量及じリオイクル等抑制策による削減状況等 (本の発生量及じリオイクル等抑制策による削減状況等 (本の発生量及じリオイクル等抑制策による削減状況等		開光類目標													
		活為 旧任・高虫	•		•										
 金 投類 億年地間の重要な状況の確認 ・ 技术路し字溝等への墜落状況の確認 ・ 技术路し字溝等への墜落状況の確認 ・ 大方 グラム (上位性の注目種)の生息状況の変化 ・ 持入 グラム (上位性の注目種)の生息状況の変化 ・ 持入 グラム (上位性の注目種)の生息状況の変化 ・ 持い 大 クリンョウウオ (特殊性の注目種)の生息状況の変化 ・ ・ ト ウホク サンョウウオ (特殊性の注目種)の生息状況の変化 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	新七 林	11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11)		_										
度生動物 (株本館 (大域) の追跡調査 ・ 大代 生 (大域) の追跡調査 ・ 大イタカ (上位性の注目側の生息状況の変化 ・ 本 大 を (大域) の追跡調査 ・ 市 大 クサンショウカイ (特殊性の注目種) の生息状況の変化 ・ ト ウホクサンショウカイ (特殊性の注目種) の生息状況の変化 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	到视	魚類	•		•										
# 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		底生動物	•		•										
		・建物への衝突状況の確認			•				•	 				 	İ
・ オオタカ (上位性の注目種)の生息状況の変化 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		・排水路∪字溝等への墜落状況の確認 ・代償措置 (水域) の追骵調本	•		• •										
・ 森林性鳥類(典型性の注目種)の生息状況の変化 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		「いば旧画の次次)の近郊間当一・ナナタカ(ト位件の注目類)の牛魚状況の変化													
・トウホクサンショウウオ (特殊性の注目種) の生息状況の変化 ・	什 能	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			•										
・自然的景報資源への影響の程度 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(・トウホクサンショウウオ (特殊性の注目種)の生息状況の変化・暗型 類移動総路の確認	•		•										
・ 眺望の変化の程度 ・ 敷地境界周辺の工事実施状況の確認 ・ 工事用車両の走行状況の確認 ・ 財地境界周辺の状況の確認 ・ 関係車面の走行状況の確認 ・ 関係車面の走行状況の確認 ・ 関係車面の左行状況の確認 ・ 連設発生本材及びリサイクル等抑制策による削減状況等 ・ 注意発生を対及びリサイクル等抑制策による削減状況等 ・ 済棄物の発生量及びリサイクル等抑制策による削減状況等 ・ 済棄物の発生量及びリサイクル等抑制策による削減状況等 ・ 液棄物の発生量及びリナイクル等抑制策による削減状況等 ・ 水の利用量の削減状況 ・ 工酸化炭素の発生量、省エネルギー対策等による削減量。 現地調査実施時期を示す。	1 4.0	一門の次に一切による。			,				Ī	l	H	Ħ	H	li	i
・敷地境界周辺の工事実施状況の確認 ・工事用車両の走行状況の確認 ・関係車面の走行状況の確認 ・関係車面の走行状況の確認 ・関係車面の左行状況の確認 ・関係車面の左行状況の確認 ・関係車面の左行状況の確認 ・関係車面の左行状況の確認 ・運動機工の発生量及びリサイクル等抑制策による削減状況等 ・廃棄物の発生量及びリサイクル等抑制策による削減状況等 ・廃棄物の発生量及びリサイクル等抑制策による削減状況等 ・正酸化炭素の発生量、省エネルギー対策等による削減量。 ・工酸化炭素の発生量、省エネルギー対策等による削減量。 ・工酸化炭素の発生量、省エネルギー対策等による削減量。 ・工酸化炭素の発生量、省エネルギー対策等による削減量。 ・工酸化炭素の発生量、省エネルギー対策等による削減量。 ・工能を表現して、一面・一面・一面・一面・一面・一面・一面・一面・一面・一面・一面・一面・一面・一	景観	・眺望の変化の程度							•	1	1 1		1 1 1	1	1
・工事用車両の走行状況の確認 ・敷地境界周辺の状況の確認 ・関係車のの走行状況の確認 ・関係車のの左右状況の確認 ・関係車のの左右を利力を抑制策による削減状況等 ・連数を生量及びリサイクル等抑制策による削減状況等 ・廃棄物の発生量及びリサイクル等抑制策による削減状況等 ・廃棄物の発生量及びリサイクル等抑制策による削減状況等 ・応棄物の発生量及びリナイクル等抑制策による削減状況等 ・応動物策による削減状況等 ・正酸化炭素の発生量、省エネルギー対策等による削減量。 ・正酸化炭素の発生量、省エネルギー対策等による削減量。 ・正酸化炭素の発生量、省エネルギー対策等による削減量。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		・敷地境界周辺の工事実施状況の確認	•	į											
・敷地境界周辺の状況の確認 ・関係車両の左行状況の確認 ・関係車両の左行状況の確認 ・連数発生本材及びリサイクル等抑制策による削減状況等 ・一ーーーーー ・廃棄物の発生量及びリサイクル等抑制策による削減状況等 ・一・一・一・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	自然との	・工事用車両の走行状況の確認	•	Ī											
・	無れ合い の場	・敷地境界周辺の状況の確認 間次末まの主合に近の体語								П				 	
・ 建放死エイルないフィノル等和削減による削減状況等 ・ 接種の発生量及びリサイクル等抑制策による削減状況等 ・ 廃棄物の発生量及びリサイクル等抑制策による削減状況等 ・ 水の利用畳の削減状況 ・ 工酸化炭素の発生量、省エネルギー対策等による削減量 ・ 、 は関化炭素の発生量、		- 第1条甲回のた174次の電影 連記数十十十五式にサイク・毎担相体に「2割ばは10番		•								Ш			
・廃棄物の発生量及びリサイクル等抑制策による削減状況等 ・水の利用量の削減状況 ・エカルギー対策等による削減量 ・工酸化炭素の発生量、省エネルギー対策等による削減量 ・工酸化炭素の発生量、省エネルギー対策等による削減量 ・工酸化炭素の発生量、省エネルギー対策等による削減量 ・工酸化炭素の発生量、	:	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		•											
・水の利用量の削減状況 ・二酸化炭素の発生量、省エネルギー対策等による削減量 ● 現地調査実施時期を示す。	廃棄物等	・廃棄物の発生量及びリサイクル等抑制策による削減状況等		,		ш				П	İ	H			
・二酸化炭素の発生量、省エネルギー対策等による削減量		・水の利用量の削減状況				l			•		+	l	ĺ		
	温室効果ガス	・二酸化炭素の発生量、省エネルギー対策等による削減量								Ī	T	Ŧ	Ħ	1	
			•	現地調査実施	5時期を示す。										
この 日本の 一番の 一番の 一番の 一番の 一番の 一番の 一番の 一番の 一番の 一番			i.	間正が同とっ	190,400,0	イタル関連は、	地下駅米口	米一杯の場面の	おおさらい	米旭で上型ップ	å				

2-13